

山形県離島振興計画の進捗状況と今後の展開方向(1/17)

平成30年度末までの状況

1 安心して生活できるコミュニティの維持と福祉の向上

(1) 定期航路の維持と島内移動手段の確保

項目	現状(離島振興計画策定時)	課題	推進施策	進捗状況	今後の展開方向	関係課
1 (1) 定期 航路	<ul style="list-style-type: none"> 市営定期船「とびしま」(253t、230名定員)、通常期は1日1往復、観光シーズンには2～3往復。 旅客人数は平成2年度をピークに減少傾向にあり、酒田市が単独で引き続き航路を維持していくことは困難な状況にある。 冬季を中心に高くなる欠航率は、依然として解消されていない状況にある。 連続して欠航する場合もあり、島民の生活物資の輸送や水産物の出荷などに影響がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 国・県の支援を受け、定期航路を引き続き維持・確保していく必要がある。 平成27年3月末で旅館・民宿3軒が廃業し13軒に減少した。旅館・民宿経営者の高齢化と後継者不足が進み、宿泊機能、昼食提供機能が低下傾向にある。 東日本大震災の影響で平成23年度の乗船数は2万5千人台まで減少したものの、平成24～25年度は2万8千人台で推移したが、その後減少傾向が顕著となり、平成27年度は25,068人まで減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期船発着所としての機能を併せ持つ漁港の整備と維持に努める。 国の支援制度である地域公共交通確保維持改事業、県の支援制度である山形県離島航路補助金を活用し、引き続き、定期船の利用促進と経営の効率化を進め、定期船の維持を図る。 平成28年9月に鳥海山・飛島地域が日本ジオパークに認定されたことから、飛島地域の魅力向上と情報発信力の向上を図り観光誘客に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 勝浦地区南防波堤は、災害復旧事業と併せて防波堤を拡幅するなど機能強化事業を実施し、平成26年度に完成。 	<ul style="list-style-type: none"> 水産物供給基盤機能保全事業により、老朽化した勝浦地区中防波堤・南護岸の長寿命化対策に取り組んでいく。 	県庄総水産振興課
				<ul style="list-style-type: none"> 酒田～勝浦航路確保維持計画を策定し、効率的な経営と安全運航の徹底に努めた。 飛島の全体を紹介するパンフレットと島内を散策するコース設定をした自然散策マップを作成し、情報発信に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、国・県の支援制度を活用し、安定的な定期船運航の継続を図っていく。 マスコミやインターネット等電子媒体の活用を含め、観光客への情報提供を積極的に進め、宿泊・日帰り観光の魅力向上を図る。 平成31年度は子ども無料キャンペーンを8月にも拡大し、より一層の親子連れ観光客の誘客促進と鳥海山・飛島ジオパーク認定ガイドの活用と情報の発信に努める。 	市定期航路事業所
				<ul style="list-style-type: none"> 飛島振興プロジェクトチーム会議で観光交流や産業振興等について検討している。 離島航路運営費補助により定期航路運営を支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> 飛島振興プロジェクトチーム会議で観光交流や産業振興について検討している。 離島航路運営費補助を継続し定期航路運営を支援する。 	県庄総連携支援室
				<ul style="list-style-type: none"> 現在の生活航路としての発着時刻では飛島での滞在時間が短く、日帰り観光客の受入れには課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 島民の声、ボランティア活動や観光客の増加への対応等を踏まえた定期船の便数及び運航時刻についても検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度の定期船運航便数、運航時間について島民と協議した結果、8月お盆過ぎから10月までの土日の酒田港出航時間を30分早くし、日帰り客の滞在時間延長に努めた。
生活 物資	<ul style="list-style-type: none"> 輸送などに係る費用のために石油製品や生活物資は本土側より割高になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期船の運賃が、島民生活において大きな負担となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の島民運賃による割引や高齢の島民向けの助成制度の拡充も含めて、人の往来及び石油製品や生活物資の流通に要する費用の軽減について検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 酒田～勝浦航路確保維持協議会を開催し、離島航路確保維持計画を策定している。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期船の利用促進を図り、航路の確保維持を目指す。 	県庄総連携支援室 市定期航路事業所
				<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の経済的負担を軽減するため、平成28年度から、助成券の交付枚数を増やした。(年間6枚→10枚) 離島ガソリン流通コスト支援事業(国) 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き助成券の交付を継続していく。 さらなる支援について、機会を捉えて国に要望していく。 	市福祉課 市まちづくり推進課

山形県離島振興計画の進捗状況と今後の展開方向(2/17)

平成30年度末までの状況

	項目	現状(離島振興計画策定時)	課題	推進施策	進捗状況	今後の展開方向	関係課
1 (1)	医療 ・ 保健	・現在酒田市が運行している診療所への通院カーについては、診療所へ通院する高齢者の利便性に寄与している。	・診療所への通院カーについては、今後ますます高齢化が進むこと踏まえ、さらなる利便性向上が求められている。	・島内の公共的な移動手段である診療所への通院カーについては、今後更に進む島民の高齢化にも対応するため、自宅への送迎など利便性向上のための運行方法を検討する。	・通院カーの自宅への送迎については、定時運行、停留所乗降の中で、利用者の転倒防止のため、身体状況に応じて自宅前までの送迎を心がけている。	・通院手段のない人には非常に役立っていることから、今後も継続をしている。	市健康課 市とびしま総合センター
	島内 交通	・公共的な移動手段については、診療所への通院カーしかなく、観光客は主に、酒田市や宿泊施設が提供する貸出自転車を利用している。	・観光振興の観点から、また、今後更に進行する高齢化も踏まえた高齢者福祉の観点からも、利便性の高い新たな島内移動手段の導入が課題となっている。	・貸出自転車については、電動アシスト自転車の導入についても検討し維持拡充に努めていく。	・26年度は塩害、老朽化した自転車20台をアルミ製自転車に更新し、利便性の向上を図った。27～29年度については更新なし。子供用自転車1台、チャイルドシート付き自転車10台を含め、60台の自転車の点検及び整備を実施した。	・多くの方に貸出自転車を利用していたくために、車体の点検に努め修繕対応などを迅速に行っていく。	市交流観光課
	道路	・県道1路線、市道4路線及び農免農道による総延長9.2kmである。	・現在の道路環境を維持していく必要がある。	・道路の適時適正な補修を進める。	・適正な維持管理に努めている。	・引き続き適正な維持管理に努めている。	市土木課
・舗装や側溝等の適正な維持管理に努めている。 ・除雪は、島内企業の協力を得て実施している。				・引き続き適正な維持管理に努めている。	県庄総道路計画課		
・飛島大橋は橋梁点検に基づき、補修工事を平成29年度に実施した。				・市は引き続き適正な維持管理に努め、県は対策工事等の相談を担っていく。	市農林水産課 県庄総農村計画課		

山形県離島振興計画の進捗状況と今後の展開方向(3/17)

平成30年度末までの状況

(2) 生活環境の整備等

項目	現状(離島振興計画策定時)	課題	推進施策	進捗状況	今後の展開方向	関係課	
1 (2)	電気	<ul style="list-style-type: none"> 供給体制は整っている。発電施設で使用する燃料は漁業協同組合所有の燃料タンカーで運搬している。 	<ul style="list-style-type: none"> 漁業協同組合所有の燃料タンカーが老朽化してきており、代船建造の時期を迎えているため、安定的な燃料の確保が課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 燃料の運搬手段について検討していく。 再生可能エネルギーの導入についても、積極的に検討を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 県漁協が、燃油船建造に向けて検討している。 平成27年度とびしま総合センターに太陽光発電設備(10kW)及び蓄電池(10kWh)を設置した。 	<ul style="list-style-type: none"> 燃油船建造に係る県市の負担割合等を検討する必要がある。 再生可能エネルギー導入における課題整理(離島連系等)、検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 市農林水産課 市環境衛生課 市企画調整課
	水道	<ul style="list-style-type: none"> 普及率100%、計画給水人口700人、計画1日最大給水量315m³(450ℓ/人)と、夏場の観光シーズンなどの一時的な水需要増加にも対応できる給水体制となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な水道水を安定的に供給していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な施設整備に努め、安全な飲料水の安定供給を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 勝浦浄水場の定期整備等、水道施設の維持管理に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 安定した供給体制を維持していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 市上下水道部工務課
し尿	<ul style="list-style-type: none"> 浄化槽市町村整備推進事業により浄化槽の設置を促進しているが、敷地面積の狭小さや、島内の経済情勢などから設置が進まない状況にある。 一時的に島内貯留槽に貯留した後に、し尿処理運搬船で島外へ運搬して処理することがほとんどである。 	<ul style="list-style-type: none"> 浄化槽設置場所の確保方法等を検討しながら、水洗化を促進していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 浄化槽市町村整備推進事業により、浄化槽の設置を促進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に浄化槽市町村整備推進事業で1基の設置をおこなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き島民から設置要望があれば浄化槽市町村整備推進事業により浄化槽の設置を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 市上下水道部工務課 	
			<ul style="list-style-type: none"> 浄化槽の設置場所の確保のため、公共用地等への設置なども協議していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 上記においては、山形県に占用申請をおこない、県道部分に浄化槽を設置した。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も設置場所の確保が困難である場合は、公共用地等への設置を協議していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 市上下水道部工務課 	
			<ul style="list-style-type: none"> 設置場所の確保が困難なため、平成25年度に浄化槽設置の占用を許可した。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じた占用の協議を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 県庄総道路計画課 		
ごみ処理	<ul style="list-style-type: none"> 昭和63年に島内に設置されたごみ焼却炉で、可燃ごみを処理しており、平成14年度には、焼却炉の改造整備によりダイオキシンによる健康被害の未然防止にも努めている。一方、不燃ごみは本土側へ運び出して処理している。 	<ul style="list-style-type: none"> 酒田市で回収していない解体空き家等の廃棄物の処理については、島外への運搬費が加算され、割高となることが島民の負担となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物については、島外搬出に要する費用への支援を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 国、県等の物流補助事業等の情報の収集に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 国、県等の物流補助事業等を視野に入れて検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 市環境衛生課 	
		<ul style="list-style-type: none"> 昭和63年に設置されたごみ焼却炉の劣化が進んでおり、その更新について検討しなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も飛島で焼却を続けるか、酒田に運搬して処理を行うか検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度から海上運搬し、酒田地区広域行政組合ごみ処理施設で処理を行っている。 将来的に焼却炉が必要となれば行進の検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 適正な処理を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 市環境衛生課 	
通信	<ul style="list-style-type: none"> 居住エリアでの携帯電話不感地帯は概ね解消され、主に観光エリアとなっている西海岸付近でも一部通信可能となっている。 ADSLサービスが提供されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 居住エリア内でも一部携帯電話の電波状況が弱い地域があり、また、観光客を中心に更なる高速通信網の整備を望む声が多く、その対応が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 通信事業者への働きかけを継続していくとともに、国の各種助成措置を活用していくことも検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 通信事業者等と連携し、電波の弱い地域の把握と対応について協議。 	<ul style="list-style-type: none"> ADSLを上回る高速通信網の整備については、費用対効果が見込まれないことから整備は難しいが、国、県、通信事業者等への働きかけを継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 市情報管理課 	
防災・減災と国土保全	<ul style="list-style-type: none"> 島内の情報伝達手段として定着しているNTTオフトーク通信サービスは、緊急時の活用にも期待されているが、平成27年までにサービス提供が終了される予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> NTTオフトーク通信サービスに替わる情報伝達手段を確保し、緊急時に正確な情報を迅速に提供できる環境を整えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> NTTオフトーク通信サービスに替わる島内情報通信手段の検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> NTTオフトーク通信サービスに替わる島内情報通信手段として、無線による新たな防災通信システム(エリアトーク)を平成27年2月に整備完了した。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後とも島内の情報伝達及び緊急時に正確な情報を迅速に提供していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 市危機管理課 	

山形県離島振興計画の進捗状況と今後の展開方向(4/17)

平成30年度末までの状況

	項目	現状(離島振興計画策定時)	課題	推進施策	進捗状況	今後の展開方向	関係課
1 (2)	生活物資	<ul style="list-style-type: none"> 個人経営の小規模な小売店が主に日用生活品を取り扱っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 島民からは島内での買い物機会の増大を望む声が数多く寄せられており、その対応が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域での共同購入体制や移動販売車の導入など、地域にあった仕組みづくりを検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 本土の事業者(スーパー)による宅配が28年度で終了したことから島内介護事業者による買物支援も平成29年4月で終了したが、他の事業者(スーパー)が宅配事業を引き継ぎ実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 島内にある「合同会社とびしま」が、雑貨販売と一部生鮮食品の販売を検討している。 移動販売車導入の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 市福祉課 市まちづくり推進課 市商工港湾課
	コミュニティ施設・活動	<ul style="list-style-type: none"> 市役所の出先機関として「とびしま総合センター」が設置され、コミュニティ活動の拠点施設として活用されているほか、体験学習等での来島者への開放も行われている。 勝浦、中村、法木の各集落には、それぞれ自治会館が設置されており、集落内の自治活動の場として活用されている。 平成24年度にとびしま未来協議会が開設したしまC a f é (現;しまかへ)は、島内外の人々が気軽に交流できる場として大変好評を博している。 これまでは、全島民が参加する運動会や文化祭が行われ、島民の交流の場となってきたが、人手不足、少子高齢化に伴い、実施が難しくなっており、コミュニティ活動の低下が心配される。 	<ul style="list-style-type: none"> 島民の交流の場が少なくなっている中、しまかへは、今後も継続的な開設が望まれており、このような気軽に語り合える場がもっと近場に欲しいとの声もあることから、各集落での交流スペースを創出などし、コミュニティの維持・活性化を図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各集落での交流スペースの創出については、既存施設の活用も視野に入れて検討するとともに、島民が気軽に集まることができる拠点づくりや交流イベントの開催への支援をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の活動拠点である、コミュニティ振興会と各自治会に対して、交付金を交付することで地域の活性化を図っている。 「しまかへ」の開設 若者団体「飛島ロマン」による空き家を改修した民俗資料館「島のミュージアム 澗(にま)」を開設した。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き交付金を交付し、支援するとともに、地域からの要望等を勘案し交付金制度の拡充等を検討する。 「しまかへ」継続への支援 	<ul style="list-style-type: none"> 市まちづくり推進課 県庄総連携支援室

山形県離島振興計画の進捗状況と今後の展開方向(5/17)

平成30年度末までの状況

(3) 医療・保健・福祉の充実

項目	現状(離島振興計画策定時)	課題	推進施策	進捗状況	今後の展開方向	関係課
1 (3) 医療 ・ 保健	<ul style="list-style-type: none"> 酒田市飛島診療所が開設され、医師1名と看護師2名が常勤する診療体制をとっていたが、平成24年3月に常駐医師が不在となり、現在は臨時的な対応として、4月から10月にかけては週末に日本海総合病院から派遣される医師1名による診療を行い、11月から3月までの期間は、酒田市立八幡病院の医師によりTV電話を使った遠隔診療を行う体制となっている。 重篤な患者については、酒田海上保安部巡視船や山形県消防防災ヘリコプターにより本土病院へ搬送する体制をとっているが、平成24年11月からは救急医療の専門医と看護師が搭乗する山形県ドクターヘリが就航したことから、救急搬送体制の強化が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 安定的な医療を確保し、島民が安心して生活できる環境を整えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 常勤医師が不在となった診療所については、早期の常勤医師の確保を図るとともに、日本海総合病院や市立八幡病院との連携を維持し、常勤医師を確保できるまでは、派遣医師による週末診療とTV電話を利用したの遠隔診療による体制を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 常勤看護師は平成28年4月から2名体制を確保している。 診療所内のバリアフリー化及び検査機器導入については平成26年度で対応済。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療全体の枠組みの中で、日本海総合病院を運営する県・酒田市病院機構へ平成30年4月1日から経営を移管した。 	市健康課
			<ul style="list-style-type: none"> 平成25年9月から常勤医師による診療を再開したが、平成27年2月で退職した。日本海総合病院及び酒田市立八幡病院からの医師派遣が行われた。 平成30年4月から日本海総合病院からの派遣医師により週2日診療。医師不在時は、松山診療所からのTV遠隔診療により診療体制を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年4月から、飛島診療所及び松山診療所は独立行政法人山形県・酒田市病院機構のもとで運営され、日本海総合病院からこれまでと同様の体制で医師の派遣が行われる。また、TV遠隔診療による診療は松山診療所から行われる。 定期的な医療監視等を通じて医療提供体制を把握し、医療従事者に対する助言を行いながら、診療所の運営主体である同機構に対して、島民への適切な医療の提供が継続的にできるよう指導を行っていく必要がある。 	県庄総保健企画課	
			<ul style="list-style-type: none"> 本土病院への救急搬送のために、山形県ドクターヘリや消防防災ヘリ及び船舶などによる複数の救急搬送手段を確保していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 患者の状態や搬送要請する時間帯、天候等により、山形県ドクターヘリや消防防災ヘリ及び船舶などによる複数の救急搬送手段の確保に努める。 平成28年3月に、患者移動用の救急車を配備している。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、複数の救急搬送体制の確保に努める。 	市危機管理課 市健康課
			<ul style="list-style-type: none"> 妊婦が本土側において健康診査を受診し、出産に必要な医療を受ける機会を確保していくための支援を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年11月から山形県ドクターヘリが運用開始し、本土病院への救急搬送を行っている。 平成26年12月から秋田県との広域連携協定を締結。 	<ul style="list-style-type: none"> 秋田県との広域協定により、飛島が秋田県のドクターヘリ運用エリアに入るため、救急搬送手段の拡大が期待される。 	県庄総保健企画課
介護サービス	<ul style="list-style-type: none"> 介護事業者の移住により、島内に介護事業所が開設されたことから、介護保険サービスの状況は大幅に改善された。 現在デイサービス等を実施する事業所 	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険サービスの充実については、島民ニーズの把握に努めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険サービスについて、島民ニーズの把握に努め、地域包括ケアの推進に向けて、サービスの充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護事業者とケアプラン作成者が島民ニーズを把握し、地域に密着したサービスの提供が行われている。 訪問介護サービスについてもニーズに応じた提供が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> とびしま総合センターの利用による島民への介護サービスの提供、及び介護保険サービス事業者への支援を継続する。 	市介護保険課 県庄総地域保健福祉課

山形県離島振興計画の進捗状況と今後の展開方向(6/17)

平成30年度末までの状況

項目	現状(離島振興計画策定時)	課題	推進施策	進捗状況	今後の展開方向	関係課
	が、人の出入りが多いとびしま総合センター内にあることから、利用者のプライバシーへ配慮した環境整備が望まれている。		・介護予防講座などの一般介護予防事業を継続的に実施していく。	・下記の2つの事業からなる一般介護予防事業を実施している。 1 元気高齢者を対象とした講師派遣事業 2 要介護状態に移行するリスクの高い高齢者に対するすこやかマスターズ事業	・一般介護予防事業を継続実施する。	市介護保険課 県庄総地域保健福祉課
1 (3)	福祉 ・平成22年国勢調査による人口は228人。65歳以上の高齢者は59.6%。18歳未満人口は2.2%。平均世帯員数も1.9人。(平成22年国調) ・ほとんどの世帯が酒田市の本土側にも住居を有している。	・高齢者福祉の充実と、青年層、若年層の移住者受入れ等により、地域コミュニティの活力維持に努めていく必要がある。	・地域の中で互いに支え合う人的体制の構築や、自治会館や空き家等を利用した高齢者等の身近な居場所づくりなどについて検討していく。	・自治会館の整備に対する助成制度を活用して、活動拠点の整備を図っている。 ・地域の自発的な話し合いによる、地域の支えあい体制や居場所づくりなどを推進しているが、飛島については、まだそのような体制になっていないため、検討まで至っていない。	・日常的な支えあい活動を実施しようとするコミュニティ振興会等に対し、事業の立ち上げ経費を助成する「地域支え合い活動事業」を推進しているの で、地域の要望に応じて対応したい。	市まちづくり推進課 市福祉課
	託児所 ・少子化により平成11年度から休園していたが、平成21年の介護事業者一家の移住により再開した。現在は就学前児童がいないことから再び休園となっている。	・飛島託児所については、希望に応じて再開できるようにしていく必要がある。	・飛島託児所については、今後も希望に応じて再開できるよう、適切な維持管理に努める。	・とびしま総合センター内の保育室の維持管理に努めている。	・飛島託児所の維持管理に努める。	市とびしま総合センター

山形県離島振興計画の進捗状況と今後の展開方向(7/17)

平成30年度末までの状況

(4) 防災・減災対策の強化と国土保全

項目	現状(離島振興計画策定時)	課題	推進施策	進捗状況	今後の展開方向	関係課		
1 (4) 防災 ・減災 と 国土 保全	<ul style="list-style-type: none"> 護岸などの海岸保全事業、砂防事業、急傾斜地崩壊対策事業などによる防災対策が実施されている。 火災に対しては女性を主体とした活動ができるような消防団組織が整備されている。 本地域の西方沖には大規模地震震源域が存在するとの指摘があり、地震発生時には短時間での津波到来が予測されるため、高台へと至る避難路が各集落に整備されており、緊急時の船舶接岸のための耐震岸壁も建設されている。また、衛星携帯電話が避難所に配備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 護岸などの海岸保全事業、砂防事業、急傾斜地崩壊対策事業などによる防災対策は、今後も計画的な事業の推進が必要である。 災害時の避難体制や協力体制など、現場レベルでの減災対策を講じる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 台風や豪雨などによるがけ崩れを防止するため、引き続き治山治水事業を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に勝浦(2)地区の急傾斜地崩壊対策事業が完成した。海岸保全事業及び砂防事業は完了している。 	<ul style="list-style-type: none"> 砂防、急傾斜施設等の適切な維持管理を行い、今後の災害等に備える。 	市土木課 市農林水産課 県庄総河川砂防課		
				<ul style="list-style-type: none"> 保安林内の松くい虫被害木は、これまでどおり完全駆除を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 治山事業として保安林内の松くい虫被害対策、濁水緩和等の漁場環境の保全のための広葉樹林の造成、本数調整伐等の森林整備を継続的に実施する。 	県庄総森林整備課 市農林水産課		
				<ul style="list-style-type: none"> 飛島地域防災計画の見直し作業の中で、災害時の避難体制や協力体制などについて、島民とともに検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 東北公益文科大学が飛島地域防災計画の見直しのための奥尻島(北海道)、網地島、田代島(宮城県)の調査を実施 平成26年度に、離島活性化交付金を活用し、飛島地域防災計画の見直しに向けて調査・検討を行った。 東北公益文科大学と連携し、とびしま未来協議会が飛島地域防災計画の見直しを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 見直しを行った飛島地域防災計画について、住民への周知に努める。 	市まちづくり推進課 県庄総連携支援室	
				<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練等のソフト対策と、居住地域の海岸保全事業によるハード対策が一体となった津波対策を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年10月に全島避難訓練(2年に1回実施)。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年に1回実施する全島津波避難訓練をはじめ、島民に対する津波避難対策を引き続き周知・実践していく。 	市危機管理課 市とびしま総合センター	
				<ul style="list-style-type: none"> 避難路、衛星携帯電話等の施設設備を適切に維持管理していくとともに、避難期間が長期にわたる場合を想定した避難所及び避難路の確保など、さらなる減災対策が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所機能の充実や避難路手すりの維持管理、再生可能エネルギー導入等による電源の分散設置、多様な情報伝達手段の確保など、災害リスク軽減のための多角的な減災対策について検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> L1津波高(設計津波高)は、平成27年3月に公表。 山形沿岸海岸保全基本計画が変更され、平成28年4月に公表。 	<ul style="list-style-type: none"> 海岸保全施設の機能診断、保全計画の策定を平成30年度に行った。その後、緊急性の高い施設の修繕等を実施していく。 	県庄総水産振興課
						<ul style="list-style-type: none"> 避難所用として食糧、水を備蓄した。 衛星携帯電話の維持、オフトーク通信サービスに替わる無線による島内通信システム(エリアトーク)を整備完了した。 避難誘導灯を整備した。 最終避難場所である飛島小中学校グラウンドに、避難スペースを兼ねた防災資機材庫を平成27年11月に整備完了した。 平成26・27年度事業で、避難路に面した空き家を解体し、災害時の島民の避難路を確保した。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、避難所機能の充実や避難路手すりの維持管理に努める。 	市危機管理課 市環境衛生課

山形県離島振興計画の進捗状況と今後の展開方向(8/17)

平成30年度末までの状況

(5) 教育の振興と文化の保存・継承

項目	現状(離島振興計画策定時)	課題	推進施策	進捗状況	今後の展開方向	関係課
1 (5) 教育	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年の介護事業者の移住により、平成12年度から休校していた小学校が9年ぶりに再開した。さらに2年後の平成23年度には、平成15年度から休校していた中学校も8年ぶりに再開した。 休校期間中には首都圏の小中学校によるセカンドスクールや修学旅行が実施されていたほか、酒田市の本土側の小学生が島民との交流や特色ある動植物の観察など、自然を活かした2泊3日の「飛島いきいき体験スクール」を行ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 飛島いきいき体験スクールなどの体験学習の拠点としても、引き続き有効に活用していくことが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 島内外の児童生徒の体験学習等拠点として引き続き活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 飛島いきいき体験スクールの活動の拠点として、飛島小中学校を利用し、市内の2小学校の児童が、飛島の豊かな自然の中でいきいきと活動することができた。 医師の渡島に併せて、金曜日から土曜日(1泊2日)に実施している学校もある。 平成28年10月5日から飛島小学校が児童の転出により休校となる。 平成31年4月から飛島中学校が休校となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 飛島診療所常勤医師が不在であることを十分に考慮した上での飛島いきいき体験スクールを継続実施する。 	市教委学校教育課
		<ul style="list-style-type: none"> 飛島小中学校は、豊かな自然の中で、のびのびと教育を受けられる環境となっていることから、さらに多くの児童生徒の健全育成の場としての活用を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然の中で、のびのびと教育を受けられる環境を活かした離島留学制度の導入などについても検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 離島留学制度の導入にあたっては、島民の理解を深めていくことが重要であり、県とも施策導入の課題について協議しながら検討を進める必要がある。現段階では、受け入れる準備を整えて離島留学を開くという段階には至っていない。 平成31年4月から飛島中学校が休校となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当初の目的達成により、平成29年度で事業終了。 	県教育庁文化財・生涯学習課
		<ul style="list-style-type: none"> 本地域には高等学校が設置されていないため、高校生は通学のために本土側への居住を余儀なくされることが島民の負担となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校等進学のため本土側に居住する際に要する費用への支援等についても検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 山間部等の条件不利地域に対する公平性等も鑑み検討を行ったが、支援制度の立ち上げに至っていない。 平成28年10月から飛島小学校が、平成31年4月から飛島中学校も休校となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 移住希望があった場合は、島の学校生活についてメリット、デメリットを情報提供し、他課と連携しながら検討していく。 	市教委学校教育課
文化 ・ 歴史	<ul style="list-style-type: none"> 縄文時代の遺物が発見されているほか、古代の絵文字が刻まれているといわれている「刻線刻画石」、平家の落武者が刀剣、甲冑を埋めたといわれている「源氏盛・平家盛」、平安時代のものとおもわれる人骨が発見された「テキ穴」、鳥海山が大噴火した時に山塊の一部が吹き飛んで出来た島という伝説、鳥海山大物忌神社と飛島の小物忌神社に伝わる「火合わせ神事」など、謎に満ちた伝説、離島特有の生活様式などの歴史文化資源や生活文化資源が豊富にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 本地域にある豊富な歴史文化資源や生活文化資源の活用と継承を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな歴史文化資源や生活文化資源の保存に努め、観光、教育、研究、交流、福祉の分野などでの活用を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 若者団体「飛島ロマン」による空き家を改修した民俗資料館「島のミュージアム 澗(にま)」を開設。 とびしま漁村文化研究会(任意団体)が行う活動を支援。 	<ul style="list-style-type: none"> とびしま漁村文化研究会(任意団体)が新たな活動を行う場合支援していく。 	市まちづくり推進課 県庄総連携支援室
			<ul style="list-style-type: none"> 豊かな歴史文化資源や生活文化資源を次代に継承するため、島内外の人材の確保・育成に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> とびしま漁村文化研究会(任意団体)が行う活動を支援。 	<ul style="list-style-type: none"> とびしま漁村文化研究会(任意団体)が新たな活動を行う場合支援していく。 	市まちづくり推進課 県庄総連携支援室

山形県離島振興計画の進捗状況と今後の展開方向(9/17)

平成30年度末までの状況

2 水産業と観光を中心とした地域特性を活かした産業の振興

(1) 水産業の振興

項目	現状(離島振興計画策定時)	課題	推進施策	進捗状況	今後の展開方向	関係課
2 (1) 水産業	<ul style="list-style-type: none"> 飛島漁港は島内3集落(勝浦、中村、法木)に整備されている。 沿岸漁業を中心とした個人操業がほとんどで、経営規模としては零細である。 漁船数は184隻(平成22年12月現在)で、そのほとんどが5トン未満の小型動力船である。 主な魚種は、イカ類、メバル類、トビウオ、サザエ、海藻など、多様多様な魚介類と海藻に恵まれている。 漁業従事者の減少と高齢化、また磯焼け等の影響により、近年漁獲量が減少してきている。 漁港整備は継続的に行われており、機能強化と施設の長寿命化を図っているが、近年波高が高くなっており、平成24年度には防波堤のケーソンが転倒するなど漁港施設も被災した。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も計画的な漁港と漁場の整備や栽培漁業の推進、効率的な流通等による漁業経営の安定化を図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 漁港や漁場の整備、維持に努め、藻場の保全活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> アワビ・サザエ・ヒラメ等の放流、試験的な魚礁沈設、漁場監視など、離島漁業再生支援事業を活用し行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 離島漁業再生支援事業を活用し、適切な取組みを継続する。 	市農林水産課
			<ul style="list-style-type: none"> 漁業協同組合等の施設整備を促進し、出荷体制の強化と流通の効率化に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 勝浦地区南防波堤は、災害復旧事業と併せて防波堤を拡幅するなど機能強化事業を実施し、平成26年度に完成。 勝浦地区防波堤(2)は、漁港施設機能強化事業により平成26年度から耐震・耐津波対策に着手している。 法木地区は、3施設(東護岸・東防波堤(A)・東防波堤(B))の機能強化対策工事を実施し、平成27年度に全て完成。 老朽化した漁港施設の長寿命化対策としての水産物供給基盤機能保全事業を平成24年度から実施している。 有用魚種の種苗放流や漁場監視、のり付け場の清掃を実施している。(離島漁業再生交付金ほかの継続)。 	<ul style="list-style-type: none"> 漁港施設機能強化事業により耐震・耐津波対策を行っている勝浦地区防波堤(2)については、引き続き工事の進捗を図り早期完成を目指す。また、残る-4.0m岸壁についても防波堤(2)の進捗を見据えながら耐震・耐津波対策を実施し、防災機能の向上を図っていく。 水産物供給基盤機能保全事業による漁港施設の長寿命化対策については、早期完成に向け、事業の進捗を図っていく。 離島漁業再生交付金ほか関係事業の継続。 	県庄総水産振興課
				<ul style="list-style-type: none"> 離島漁業再生支援事業を活用し、各種事業を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 離島漁業再生支援事業を活用し、適切な取組みを継続する。 	市農林水産課
				<ul style="list-style-type: none"> 活アワビの出荷を行い、鮮度保持による付加価値向上に努めている。 「シャキとろぎばさ」の加工販売のための加工機械をリースした(離島漁業再生支援事業)。 盛漁期には貯氷庫の氷を絶やさぬよう十分配慮している。 販路の拡大を図り価格維持と流通の効率化を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 鮮度保持出荷と貯氷庫管理の継続 地元FMラジオで庄内一円の魚の紹介コーナーで飛島の魚にふれるなど、販路拡大の継続 「シャキとろぎばさ」の販路拡大 	県庄総水産振興課

山形県離島振興計画の進捗状況と今後の展開方向(10/17)

平成30年度末までの状況

項目	現状(離島振興計画策定時)	課題	推進施策	進捗状況	今後の展開方向	関係課
2 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 漁業者を中心にトビウオの焼干しやイカの塩辛、干しアラメ、さらに最近では湯通し塩蔵ワカメなどの水産加工品の製造が行われているが、個人若しくは小規模の組織による製造が主であり、その規模は零細である。 	<ul style="list-style-type: none"> 製品の安定供給や品質の統一などが課題となっている。 島内全地域の高齢者や移住者による加工組織の構築等により、水産加工品のブランド化を図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 水産加工品を飛島ブランドとして確立するため、品質統一と安定生産のための体制を検討し、情報発信の強化や流通販路拡大等により知名度の向上及び市場の拡大を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光お土産品開発事業を活用し開発された飛島幻の天保そば・トビウオだしつゆセットは、島内はもとより、市街地でも人気商品となっている。 鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会では、関連商品開発に対して助成を行っている。 全国豊かな海づくり大会や庄内森とみどりのフェスティバルで特産品を販売している。 島内での加工場がないなど、お土産品の多くは、外注に頼っているのが現状。 	<ul style="list-style-type: none"> 離島漁業再生支援事業を活用し、適切な取組みを継続する。 島内の水産資源や活用方法について住民が主体となった洗い直しを行い新たな水産加工品の販売、特に冬期間の雇用や収益に結びつける。 	市農林水産課 市交流観光課
				<ul style="list-style-type: none"> 主な加工品として、イワノリ、アワビ、トビウオ、イカ、海藻類等を原材料に10種類以上が生産販売されている。 飛島に繁茂する有用な海藻アカモクを加工し「シャキとろぎばさ」を開発し販売を開始した。 	<ul style="list-style-type: none"> 飛島産水産物の加工施設において原材料の確保等、簡易加工業が順調に進むように相談役となる。 既存商品販売を支援する。 	県庄総水産振興課
				<ul style="list-style-type: none"> ロゴマークを作成・活用し、「しまかへ」やイベントで特産品のPRを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ロゴマークを活用し、イベントで特産品のPRを継続実施する。 	県庄総連携支援室
	<ul style="list-style-type: none"> 漁業従事者は64人と就業人口全体の約4割を占め、次いで旅館や民宿を中心とする宿泊業・飲食サービス業従事者が、全体の約2割の27人となっており、水産業と観光が本地域の基幹産業となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 飛島での通年漁業については、魚介類と海藻の種類によって漁期や漁法があり、様々な漁具の準備が必要となるなど、新規漁業者にとって独立経営開始は、初期投資が多くなるのが課題である。 水産業と観光ともに就業者の高齢化と後継者不足に悩んでおり、後継者の確保が大きな課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 漁業後継者を確保・育成するため、既存の各種後継者育成支援制度を円滑に実施できるよう、地元漁業者を中心とした協力体制の構築を促進 移住者等の新規漁業者に対しては、山形県漁業就業者確保育成センター及び山形県漁業協同組合を窓口として新規就業に係る情報提供や技術的研修に取り組んでいくとともに、比較的参入しやすい採貝藻漁業、定置網漁業からの就業を促していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 労務費、漁業者への指導謝礼 中古漁船導入への支援 漁業就業の相談に随時対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 中古漁船導入への支援を継続する。 漁業就業の相談を随時受け、対応を継続する。 	市農林水産課
				<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度から漁業就業希望者に1年間漁業習熟研修制度を設けた(漁業就業支援対策事業：県庁予算)。 	<ul style="list-style-type: none"> 漁船・漁具などの購入の支援。 漁業就業支援対策事業による支援を継続する。 	県庄総水産振興課

山形県離島振興計画の進捗状況と今後の展開方向(11/17)

平成30年度末までの状況

(2) 観光の振興

項目	現状(離島振興計画策定時)	課題	推進施策	進捗状況	今後の展開方向	関係課
2 (2) 観光	<ul style="list-style-type: none"> 狭い地域の中で、極めて特色ある自然資源を有しており、それらがそのまま優れた観光資源となっている。 離島ブーム時をピークに、年々、観光客数は減少し、近年では1万3千人程度で推移している。 島内の宿泊施設は、旅館が7軒、民宿が9軒あり、そのほとんどが家族経営となっており、近年では、従事者の高齢化により廃業するところが出てきている。 島内には、遊歩道と保安林管理道が整備され、バードウォッチング愛好者に対する情報提供や遊歩道の案内機能も整備されている。 日帰り観光客の受入については、旅館等での昼食提供や、とびしま未来協議会が開設したしまCafeなどにより改善が図られてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光客数を増加させるため、自然観賞や釣りに加えての新たな魅力、新たな観光メニューの創出が望まれている。 今後も多様な観光ニーズに対応したサービス提供に努め、飛島の魅力や受入体制等の観光情報を発信し、観光振興を図っていく必要がある。 遊歩道等は歩道脇の草刈りや落葉の除去等の管理が必要であり、展望台等の観光施設は老朽化してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本地域の特色ある動植物相や豊かな自然環境、豊富な海洋資源、歴史文化資源や島民がこれまで培ってきた生活の知恵や漁体験などの生活文化資源などを活かした、滞在交流型の要素を取り入れたニューツーリズムやバードウォッチング・ガイドを活用した野鳥観察観光などの新たな観光メニューの創出に努める。 平成27年3月に鳥海山飛島ジオパーク構想推進協議会が設立され、飛島の大地の成り立ちから漁村文化までを幅広くジオパークの視点から紹介し、島民の機運醸成を図ることで島の活性化へ繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> エージェント訪問等の効果により、飛島訪問の企画旅行が増えた影響で、訪問客数が伸びている。特に日帰り商品好評。 平成29年度から飛島をフィールドに「鳥海山・飛島ジオパーク講座」を開催している 	<ul style="list-style-type: none"> 日帰り客に対するサービス商品開発を要する。 ジオパークの視点から飛島を紹介するモデルコースを設定し、モニターツアーを通じた観光誘客の誘致やエージェント訪問でのツアー造成を積極的に行う。 観光客への体験メニュー等の提供のために島民が主体となった検討会を実施しアイデアを具体化していく。 平成29年度にバードウォッチャー用のベンチを6台設置した。 平成30年度にとびしまマリンプラザ内にインフォメーションコーナーを設置し情報発信の強化をする。 	市交流観光課 市社会教育文化課
				<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度から飛島観光ガイド養成講座を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ジオパークガイド上級講座との統合を行い、飛島でガイドができる人材の確保に努めていく。 	県庄総観光振興室 市交流観光課
				<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度に飛島観光健康ツーリズムのモニターツアーを実施した。 平成29年度、平成30年度に飛島を舞台に健康づくりのためのツアーを企画、実施している旅行会社に対し、助成金を交付した。 平成30年度に外国人向けのメディアを招請し、飛島のマリンスポーツ等について国内外への情報発信を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、飛島を舞台に健康づくりのためのツアーを企画、実施する旅行会社に対し、助成金を交付する。 	県観光立県推進課 県庄総観光振興室 市交流観光課 県庄総連携支援室
				<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に若者団体「飛島ロマン」が体験プログラムを企画。やまがた若者ボランティアキャラバン隊2013に参加した若者が飛島で開催された地域づくり研修会を受講し、飛島の文化・歴史に触れた。 		県庄総子ども家庭支援課
				<ul style="list-style-type: none"> 新たな観光サービスの提供に向けて、島内協力体制の構築を促進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度に鳥海山・飛島ジオパーク誕生を契機に、ジオパークを切り口としたワークショップを開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> とびしま未来協議会等において関係者と協議していく。 平成31年度は、観光資源等に関する調査検討業務を委託し、新たな観光商品の開発に向けモニターツアー等を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> 宿泊施設のサービス水準の向上や、トイレの水洗化などの質的な向上について引き続き促進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に浄化槽市町村整備推進事業で1基の設置をおこなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き浄化槽市町村整備推進事業により浄化槽の設置を促進していく。 	市上下水道部工務課			

山形県離島振興計画の進捗状況と今後の展開方向(12/17)

平成30年度末までの状況

項目	現状(離島振興計画策定時)	課題	推進施策	進捗状況	今後の展開方向	関係課
2 (2)			<ul style="list-style-type: none"> 観光施設や遊歩道等の整備及び適正な維持管理により、観光客の快適性の向上を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 渚の鐘周辺へのトイレの整備(工事) 	<ul style="list-style-type: none"> 渚の鐘周辺のトイレの維持管理 	市交流観光課 県庄総連携支援室
			<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度繰越事業として、高森小松浜線老朽化歩道橋再整備を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も必要箇所の補修整備を行っていく。 	県庄総環境課 (みどり自然課)	
			<ul style="list-style-type: none"> 草刈りなどの適正管理を行っている。 マリンプラザへのインフォメーションコーナーの設置と、飛島エリアジオパーク総合案内看板の設置を行った。 ジオパーク解説看板1か所と歓迎看板1か所の設置を行った。 ボランティアによる環境保全作業として小松浜周辺の除草作業を行い、トビシマカンゾウの定植作業を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 塩害による痛みも大きいことから、随時管理を行い、観光客が気分よく安全に散策できる対応を行う。 ジオパーク解説看板を計画的に設置していく。 トビシマカンゾウ群生地の除草作業を継続し、飛島の魅力の復活と環境保全の両立を目指す。 遊歩道、東屋の維持管理を継続する。 	市農林水産課 市交流観光課	
			<ul style="list-style-type: none"> しまかへを観光拠点のひとつと位置付け、観光案内をはじめ、各種情報の提供、とび魚だし、イカ、ゴドイモ、天保そばなどの島の特産品を使った飲食物の提供等により、島民と観光客が気軽に交流できるにぎわいの場づくりに努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> とびしま未来協議会が島内の会社にしまかへの運営を委託し、弾力的な運営を推進している。 	<ul style="list-style-type: none"> 県事業等による促進策と連携し、引き続きにぎわいの場づくりに努める。 「しまかへ」への支援を継続すると共に、カフェ・食堂機能の再整備を検討していく。 	市まちづくり推進課 県庄総連携支援室
			<ul style="list-style-type: none"> 観光キャンペーンやイベントへの出展なども活用しつつ、多様な媒体を利用して、県内外への積極的な情報発信に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 仙山交流味祭in山形、アイランダーでPRを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、アイランダー等でPRを実施する。 	市まちづくり推進課 県庄総連携支援室
			<ul style="list-style-type: none"> 首都圏での観光プロモーション(旅行会社訪問)において、飛島の観光素材(トレッキング等)の情報提供を行い、旅行商品税制の働きかけを行った。また、庄内観光コンベンション協会HP、観光ガイドブック等で情報発信を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般観光客向けにはタウン誌・専門誌やHPでの情報発信、旅行会社向けには訪問による旅行商品造成の働きかけを継続する。 	県庄総観光振興室	
<ul style="list-style-type: none"> 鳥海山SEA TO SUMMITのオブショナル大会として飛島から吹浦港までシーカヤックを漕いで上陸する大会(シーツーサミット飛島スタート事業)を企画し、飛島観光及び島民との交流、情報発信を期待したが荒天により計画していた平成27~29年度の3か年度全て中止となった。 平成28年度から飛島及び定期船とびしまのパフレットを更新した。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様なイベント等が行われるよう、飛島観光協会、とびしま未来協議会等と連携を深める。 ガイド養成を継続していく。 平成28年9月に誕生した鳥海山・飛島ジオパークのネットワークを活用した飛島PRを積極的に実施する。 	市交流観光課				

山形県離島振興計画の進捗状況と今後の展開方向(13/17)

平成30年度末までの状況

(3) 地域産業の振興と就労の場の確保

項目	現状(離島振興計画策定時)	課題	推進施策	進捗状況	今後の展開方向	関係課
2 (3) 地域産業の振興と就労の場の確保	<ul style="list-style-type: none"> 新たな特産品開発としては、東北公益文科大学、山形県農村工業農業協同組合連合会、山形県漁業協同組合からなる「とび魚だしプロジェクト」による、とび魚だしを使っためんつゆの開発や、とびしま未来協議会による、とび魚だしめんつゆと天保そばの乾めんのセットの開発が行われている。 新しい作物の可能性を探るため、かんきつ類の畑地や家庭の鉢植えでの試験栽培による生育状況の調査が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 6次産業化への取り組みや、地場産品の高付加価値化への取り組みなどを促進し、経営の安定と雇用の創出を図っていく必要がある。 かんきつ類については、経済栽培が可能かどうか継続して検討していく必要がある。 漁業と他業種と連携等による高付加価値化への取り組みなどにより、採算性の向上を図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理的環境などの地域特性を活かした地場産品の高付加価値化への取り組みを促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 加工施設整備への支援 島の特産品や飲食物メニューの試食の実施 ブランド化のため試食販売を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 技術指導、販路開拓への支援 イベントで、島の特産品の試食販売を継続する。 	県庄総連携支援室 県庄総地域産業経済課 市農林水産課
			<ul style="list-style-type: none"> インターネット販売等への取り組みを促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 島内事業者がインターネット販売を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じた雇用の安定を図るため、インターネット販売を支援する。 	市まちづくり推進課 県庄総連携支援室
			<ul style="list-style-type: none"> すだち等のかんきつ類については、畑地での試作を継続し、結果を踏まえて、次の展開を検討するとともに、しまかへや宿泊施設での食と結び付けた活用方法を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年5月、28年産冷凍果実を旅館に提供。ゼリー、ポン酢に活用された。 平成29年10月、29年産スダチを旅館に提供。焼魚等への添え物として提供された。酒田市内の「炭かへ」では、添え物やサワーに利用された。 平成30年産スダチを合同会社とびしまが県内加工業者に委託し「スダチアイス」160個を製造した。 	<ul style="list-style-type: none"> 生食用については、飛島では10月以降利用客が減るため、9～10月の利用について検討する。 収穫量の拡大が見込まれるため、利用検討施設の拡大を図る。 観光客が多く訪れる5～8月の利用に向け、加工品について検討する。 島内の「しまかへ」での「スダチアイス」の販売をPRする。 	県庄総地域産業経済課 県庄総産地研究室
			<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度はすだちで2,500果程度を収穫し、調査を実施した。温州みかんは鳥害があり、防止策等を検討中。 	<ul style="list-style-type: none"> 樹の特性、果実品質、収量の安定性等の調査を継続し、適応性を判断する。 これまでの検討を踏まえ、栽培可能性の高いかんきつ類を選定する。 	県庄総産地研究室	
			<ul style="list-style-type: none"> 6次産業化を進めるため、島内外の漁業者、加工業者、販売事業者とのマッチングを推進し、これらを担う人材の確保・育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> アワビ陸上養殖施設(遊佐)の視察、男鹿市水産物産直施設の視察を実施し研修会を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 商品開発と既存商品販売の支援を継続する。 島内外漁業者、加工業者、販売事業者とのマッチングのための勉強会の開催 	市農林水産課 県庄総水産振興課
			<ul style="list-style-type: none"> 島内加工業者と島外販売者のマッチングの実施 	<ul style="list-style-type: none"> (公財)日本離島センター等が開催するマッチング事業の情報を積極的に提供していく。 	市まちづくり推進課 県庄総連携支援室	
			<ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地 	<ul style="list-style-type: none"> 主な生産物は、ゴドイモと呼ばれるジャガイモや、大根、玉ねぎなど。そのほとんどが小規模な畑地で自給用として栽培されている。 経営耕地面積は皆無。(平成22年農業センサス) 採種栽培も従事者の高齢化とともに衰退している。 耕作放棄地が増加してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 耕作希望者への農地の貸出しや、体験農業フィールドとしての利活用など、農地の有効活用を図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も増加が見込まれる耕作放棄地や空き家等について、体験農業や滞在交流型観光及び特産品開発などの拠点として有効に活用していく方法を検討し、あるものを活かした地域産業の振興に努めていく。

山形県離島振興計画の進捗状況と今後の展開方向(14/17)

平成30年度末までの状況

3 自然環境の保全・活用と交流人口の拡大

(1) 自然環境の保全・活用

項目	現状(離島振興計画策定時)	課題	推進施策	進捗状況	今後の展開方向	関係課	
3 (1) 自然 環境	<ul style="list-style-type: none"> 酒田港沖北西39.3kmの日本海上に位置し、周囲12.0km、面積2.75km²。 本地域には典型的な海岸段丘や実に多様な動植物相が展開している。 	<ul style="list-style-type: none"> 希少性のある生物を中心とした豊かな自然を保護していくことが求められている。 学術面はもちろん、児童生徒や一般市民の自然観察・学習に適したフィールドとして、自然環境の保護に努めつつ、一層の活用が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本地域の特色ある動植物相を保全することの大切さを啓発するとともに、鳥海国定公園の適切な管理に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然公園管理員による定期的なパトロールを実施している。 海岸清掃及び登山道刈払補修を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も自然公園管理員による定期的なパトロール活動や登山道刈払等を継続していく。 貴重な生物資源として観光資源等に活用できるようにする。 	県庄総環境課	
			<ul style="list-style-type: none"> 治山事業による森林資源の維持管理などにより、継続的に自然環境の保全に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 森林資源の維持管理に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 森林資源の維持管理など、自然環境の保全に努めていく。 	市農林水産課	
			<ul style="list-style-type: none"> 飛島クリーンアップ作戦を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保安林内の松くい虫被害木は、これまでどおり完全駆除を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 治山事業として保安林内の松くい虫被害対策、濁水緩和等の漁場環境の保全のための広葉樹林の造成、本数調整伐等の森林整備を継続的に実施する。 	県庄総森林整備課	
				<ul style="list-style-type: none"> 第18回飛島クリーンアップ作戦を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 産学官民協働事業として、飛島クリーンアップ作戦を継続実施していく。 	県庄総環境課	
				<ul style="list-style-type: none"> 漁港内及び漁港海岸部の漂着物について、一部回収・集積を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 回収・集積済み漂着物の処分並びにその他回収可能箇所の回収・処分を進める。 	県庄総水産振興課	
			<ul style="list-style-type: none"> 飛島クリーンアップ作戦とも連携をとりながら、海岸漂着物地域対策推進事業により、漂着物の回収、処理を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 山形県海岸漂着物対策推進地域計画を着実に推進する。 	県庄総河川砂防課		
				<ul style="list-style-type: none"> 環境保全を目的としたボランティア活動のフィールドとしての活用を道路の草刈、森林の下刈り活動などの漂着ごみの清掃活動以外にも広げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 飛島で、ボランティア活動を実施する団体に対して、渡航費用を全額助成する補助金制度を実施し、支援を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助事業を継続する。 	市まちづくり推進課
				<ul style="list-style-type: none"> 飛島を舞台とした環境教育プログラム(小中学生親子対象)を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育効果を考慮し、小中学生の親子を対象に継続実施する。 	県庄総環境課 (県循環型社会推進課)	
			<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度から「飛島を舞台とした環境教育プログラム(フリースクール等に通う中高生対象)」を実施した。(平成28～30年度は欠航により本土実施) 	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年度から「豊かな自然体験による青少年の自立を促す環境教育事業」として遊佐町西浜海岸及び海浜自然の家で実施予定。 	県教育庁文化財・生涯学習課		
				<ul style="list-style-type: none"> 漂着ごみの中にある再利用可能なものの利用方法についても検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 飛島に漂着した流木で炭を作り、島内での利用可能性を探るため実証実験を実施し、品質及び採算性の向上が当面の課題であることを確認した。 平成29年3月に実証実験で使用した炭焼き窯を鶴岡高専に譲渡した。 	県庄総環境課	

山形県離島振興計画の進捗状況と今後の展開方向(15/17)

平成30年度末までの状況

(2) 交流人口の拡大

項目	現状(離島振興計画策定時)	課題	推進施策	進捗状況	今後の展開方向	関係課
3 (2) 交流人口の拡大	<ul style="list-style-type: none"> 美化活動などのボランティア活動を目的に本地域を訪れる団体に対しては、酒田市が渡航経費を助成することで、その活動を支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> 島内外の交流や協働活動を今後も継続・支援し、さらに活性化していくことで、幅広い視点を持った島づくり活動に繋いでくることが必要となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光振興の施策を実施することで交流人口の拡大を図る。 			
			<ul style="list-style-type: none"> ボランティアをはじめ、エコツアーや体験学習などを目的とする来島者等の受入体制を整え、その活動を支援することにより、交流の活性化を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成25～27年度、清掃ボランティアを取り入れた婚活事業や飛島の食材を使ったバーベキューや漁船クルーズなど、飛島の観光資源を活用した婚活事業を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助事業を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 県庄総子ども家庭支援課
			<ul style="list-style-type: none"> 飛島で、ボランティア活動を実施する団体に対して、渡航費用を全額助成する補助金制度を実施し、支援を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 市まちづくり推進課 		
			<ul style="list-style-type: none"> 複数地域居住のようなライフスタイルでの短期・中期的な滞在による交流を促進するため、空き家等を活用した受入体制の構築について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度、空き家を活用した移住者を受け入れた。 空き家等の活用については、居住できない老朽空き家が多いことと、貸してくれる方が少ないことから、受入体制の構築は進んでいない。 	<ul style="list-style-type: none"> とびしま未来協議会やその他団体等と連携して検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 市まちづくり推進課
		<ul style="list-style-type: none"> 様々な媒体により広く情報発信に努め、交流人口の拡大に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 県政テレビ番組での放送 各エージェント訪問等での情報発信 日本ジオパークネットワークの活用による情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 市内の小学生に向けた自然体験教室にジオパークの視点を入れ、飛島の成り立ちや文化を体験できるメニューを提供し、島内に子供を呼び込む。 ジオガイドを活用し、ジオパークの視点から飛島を紹介するジオツアーを実施し、島外からの誘客による交流人口の拡大に務める。 島民の知識と経験を誘客・交流・体験メニューに活かすため、観光資源の洗い出しの場と商品造成へ繋げる機会を創出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 市交流観光課 県庄総観光振興室 市まちづくり推進課 県庄総連携支援室 	

山形県離島振興計画の進捗状況と今後の展開方向(16/17)

平成30年度末までの状況

4 島内外の人材の協働による島づくりの推進と移住・定住の促進

(1) 島内外の人材の協働による島づくりの推進

	項目	現状(離島振興計画策定時)	課題	推進施策	進捗状況	今後の展開方向	関係課
4	島内外の協働	<ul style="list-style-type: none"> 島外との協働による島づくり活動の必要性について、地域の中での理解が深まってきている。 島民と行政、各種団体が構成されるとびしま未来協議会が島づくりのための合意形成の場として期待されるとともに、この組織の持つ幅広いネットワークを活用した、島内外の協働による島づくり活動の展開が望まれている。 島内外の交流、協働といった面では、飛島クリーンアップ作戦、天保そば・ゴドイモ収穫感謝祭、三島交流会、とび魚だしプロジェクトが継続的に取り組まれてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 島内外の交流や協働活動を今後も継続・支援し、さらに活性化していくことで、幅広い視点を持った島づくり活動に繋いでいくことが必要となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> とびしま未来協議会の持つネットワークを活用し、島内外の多様な人材の協働による島づくり活動を促進していく。 三島交流会(佐渡島・粟島・飛島)やアイランダーなどの交流事業については、島づくり活動を学ぶ場として継続的に参画し、他地域の取組みや考え方を学ぶとともに、交流を活性化させることで、島民の島づくりに対する意識の醸成を図っていく。 飛島クリーンアップ作戦を一つのモデルとして、今後の島づくり活動に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> とびしま未来協議会に合同会社とびしま、飛島ロマン等が加入。 平成30年度に佐渡島で三島交流会を開催。飛島、粟島からも関係者が参加した。 アイランダーなどの各種交流事業へ参加した。 (公財)日本離島センターが開催する「島づくり人材養成大学」に島民1~2名が毎年参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークを活用した島づくり活動を促進していく。 三島交流会、アイランダーなどの交流事業に継続的に参画していく。 平成31年度の三島交流会は、粟島で開催。今後のあり方について検討していく。 個人、団体のボランティアと、NPO、行政等の協働による島づくり活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 市まちづくり推進課 県庄総連携支援室 市まちづくり推進課 市とびしま総合センター 県庄総連携支援室 市まちづくり推進課 県庄総連携支援室

山形県離島振興計画の進捗状況と今後の展開方向(17/17)

平成30年度末までの状況

(2) 移住・定住の促進

項目	現状(離島振興計画策定時)	課題	推進施策	進捗状況	今後の展開方向	関係課
4 (2) 移住 ・ 定住	<ul style="list-style-type: none"> 介護事業者の移住により、島外からの移住者受入れに対する島民理解が進んだ。 外部人材として緑のふるさと協力隊を配置し、島内のマンパワー不足を補うとともに、地域の一員として、若者・他所者ならではの感性を島づくり活動に活かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 島内外の交流や協働活動を今後も継続・支援し、さらに活性化していくことで、幅広い視点を持った島づくり活動に繋いでくることが必要となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 緑のふるさと協力隊や地域おこし協力隊等の外部人材については、今後も継続して配置していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度は、地域おこし協力隊が1名赴任したが、3年間の任期を終える前に1年で退任、そのまま飛島での居住を選択し、飛島内の事業所に就職した。 緑のふるさと協力隊については、隊員希望者の激減により2年連続で配置できなかったため、平成29度から募集を断念した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊の募集を継続して行い、配置、導入していく。 	市まちづくり推進課
	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年国勢調査による人口は228人。65歳以上の高齢者は59.6%。18歳未満人口は2.2%。平均世帯員数も1.9人。(平成22年国調) ほとんどの世帯が酒田市の本土側にも住居を有している。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者福祉の充実と、青年層、若年層の移住者受入れ等により、地域コミュニティの活力維持に努めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 島民の必要に応える地域貢献従事者(本土側からの生活物資仕入れ作業、島内販売、高齢者見回り、行政との連絡等)を確保・育成する取組みについて検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊が取組みを検討したものの、実施までには至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊の募集を継続して行い、配置、導入し、取組みを進めていく。 	市まちづくり推進課 県庄総連携支援室
			<ul style="list-style-type: none"> 移住希望者に対するきめ細かな相談支援・情報提供体制を構築し、空き家の利活用などによる移住者の住まいに対する支援の充実を行うことで島外からの移住者の受入れを促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度から移住総合相談窓口を開設。移住相談員を配置して丁寧で迅速な相談を心がけて対応している。 首都圏のフェアに参加するなどして、魅力の情報発信に努めている。 移住アドバイザーを配置した。 平成27年度から移住体験事業を実施 平成28年度、空き家を活用した移住者を受け入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度から移住総合相談窓口を開設。移住相談員を配置して丁寧で迅速な相談を心がけて対応している。 首都圏のフェアに参加するなどして、魅力の情報発信に努めている。 移住アドバイザーを配置した。 平成27年度から移住体験事業を実施 平成28年度、空き家を活用した移住者を受け入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> 移住希望者に対しては、移住総合相談窓口と、とびしま総合センターがそれぞれ主体的に連携して、引き続ききめ細やかな支援を行う。 効果的、効率的に情報発信を継続していく。 移住希望者の住まいに関しては空き家の利活用を検討し、情報収集に努めるとともに、改修する際の支援を継続する。 移住相談・情報提供の体制と空き家の利活用については、とびしま未来協議会やその他団体等と連携して検討を継続する。 移住体験事業を継続実施する。
	<ul style="list-style-type: none"> 漁業従事者は64人と就業人口全体の約4割を占め、次いで旅館や民宿を中心とする宿泊業・飲食サービス業従事者が、全体の約2割の27人となっており、水産業と観光が本地域の基幹産業となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 水産業と観光ともに就業者の高齢化と後継者不足に悩んでおり、後継者の確保が大きな課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光客等の受入体制を充実させることで島内の就労の場を創出し、旅館や民宿などの後継者が回帰・定着できる環境づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 受入体制の整備について、市関係各課と県が合同で検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> 移住者の就労先確保の課題とも併せ、とびしま未来協議会やその他団体等と連携し、関係者と協議していく。 	市まちづくり推進課 県庄総連携支援室